

消防団の1年

主な活動

- 4月 春の火災予防運動
- 5月 総合防災訓練
- 6月 水防訓練
消防操法大会(市)
- 7月 花火大会などの警戒
- 8月 消防操法大会(郡市・県)
- 10月 のしろ産業フェアでの
広報活動
- 11月 秋の火災予防運動
- 12月 年末特別警戒
- 1月 消防出初式
- 2月 昭和24年大火の日警戒
- 3月 昭和31年大火の日警戒



消防操法大会 ポンプやホースなどの取り扱いと操作の基本について技術を競います。



総合防災訓練



水防訓練 出水期に備え、浸水被害などを想定した訓練を行います。



火災予防運動 各分団が地域を巡回し火災予防などを呼びかけます。

巻頭特集

地域のヒーロー 消防団!



消防出初式 消防関係者が一堂に会し、消防人としての使命を新たにします。

活躍ピックアップ

第62回秋田県消防操法大会 ポンプ車操法の部で優勝

昨年8月に行われた秋田県消防操法大会で、常盤地区で活動する第6分団が2年連続、3回目の優勝をしました。



市消防操法大会にて 昨年9月、市長に優勝報告

鶴形地区で発生した火災での活躍

昨年6月・7月に発生した鶴形地区での火災では、鶴形部隊のほか、道地部隊、檜山部隊も現場に駆けつけ、第7分団が連携して消火活動にあたりました。

学生消防団の活躍

秋田しらかみ看護学院では、多くの学生が消防団に入団しています。袴田優衣さん(2年)は、「高校生のとき、受験先の秋田しらかみ看護学院について調べているうちに、学生消防団があることを知り、興味を持ちました。勉強しながら地域の活動ができることや、卒業後も能代に住みたいと考えていて、地域のことをより深く知りたいと思っていたことから、入学後の説明会で活動内容などを聞き、入団を決めました」と、入団までの経緯を話してくれました。

主に学校の長期休業中に活動しているため、学業との両立は負担なくできているとのこと。団の活動を通して地域を知り、自分の視野も広がっていると感じていて、2年連続で参加した消防出初式では、団員としての自信を持って行進できたそうです。



袴田優衣さん(秋田しらかみ看護学院)

秋田しらかみ看護学院の学生消防団は、のしろ産業フェアで「防災ブース」を設置して広報活動するなど、積極的に活動に取り組んでいます。

消防団の役割

地域における消防防災の要として、消防組織法に基づいて市町村に設置される消防機関です。火災現場での消火をはじめ、地震や風水害といった大規模災害発生時の救助・救出、警戒巡視、避難誘導、災害防御などさまざまな現場で活躍しています。

消防と消防団の違いは?

消防本部や消防署は24時間体制で災害に備えています。それに対し消防団は、主に地域の住民や通勤・通学している方々で構成されています。普段は別の仕事をしながら、火災などの災害があれば、現場へ出動して地域の安全を守っています。

そして、消防団は火災などの非常時だけではなく、住民への啓発・広報活動、防火指導、特別警戒など地域に密着した活動を行っています。地域における消防力・防災力の向上、地域コミュニティの活性化に大きな役割を果たしています。

消防団の現状と課題

現在、全国的に消防団員の減少が課題となっています。人口減少に伴って消防団として活動できる人数が減少してしまうと、近年多発化・激甚

化している豪雨や地震、林野火災などの災害時における現場での活動に支障を来すなどの可能性がります。また、平時における訓練、防火広報や地域巡回といった、地域の防災力を高める活動を維持することも難しくなっています。

能代市においても消防団の定員は745人と定められていますが、現在の団員は602人(令和8年2月1日現在)と定員を下回っています。少子化や生活スタイルの多様化などの理由が考えられますが、消防団員のなり手不足は大きな課題となっています。

災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。いざという時に大切な家族や地域を守るため、消防団の皆さんは守られる側から「市民を守る側」となって日々活動しています。皆さんも、地域を守り、地域の安心を支える身近な消防団の仲間になって、一緒に活動しませんか。

